

豪徳寺 彦根藩主井伊家墓所

— 国の史跡に指定されます —

平成十九年十一月

宗教法人 豪徳寺

世田谷区教育委員会

◆彦根藩主井伊家

井伊家は遠江国井伊谷(静岡県浜松市北区引佐町)を中心に勢力を持つた武士で、戦国期には今川氏の配下にありました。近世初期になると、井伊家二十四世とされる直政は徳川家康に仕え、関ヶ原合戦などで活躍します。直政は近江国(滋賀県)を与えられ初代彦根藩主となり、ちに徳川四天王の一人とされました。一代直孝も、大坂の陣の功績により、近江国、下野国佐野領(栃木県佐野市)、武藏国世田谷領(東京都世田谷区)あわせて三十万石の大名となっています。

井伊家は、徳川幕府譜代大名の中で筆頭格にあり、常に江戸に居て将軍の側近くに仕える立場にありました。歴代藩主のうち五人は大老職に就き、幕府政治に直接関与することができました。

◆豪徳寺と井伊家

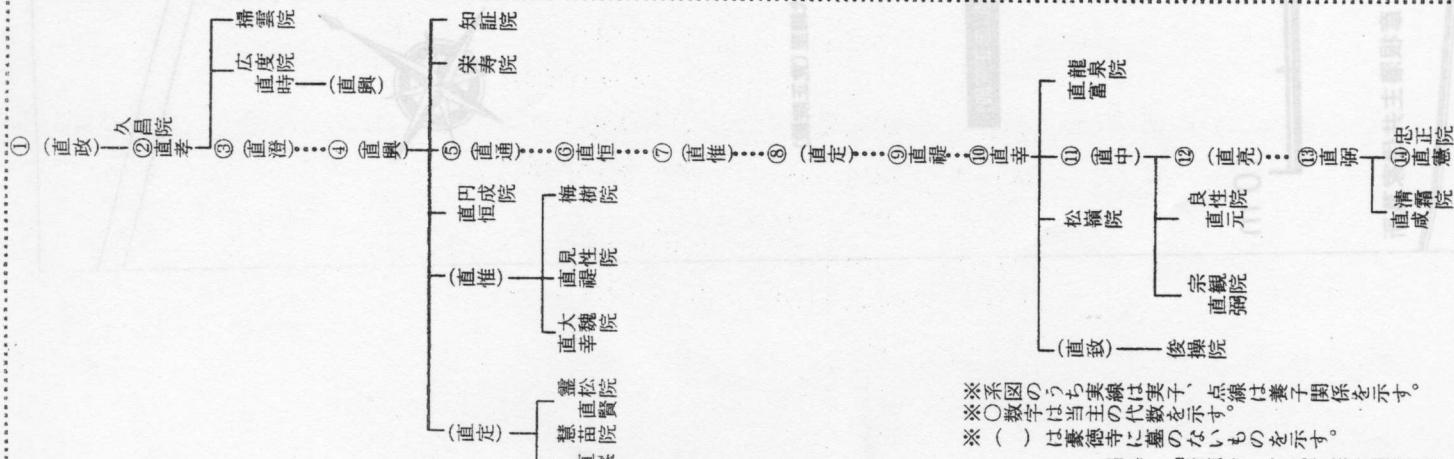
豪徳寺は、もとは中世に世田谷の領主であった吉良氏が創建した寺院で、弘徳院と称していました。江戸初期の寛永十年(一六三三)、世田谷領の十五ヶ村は彦根藩領となりました。これを機に弘徳院は井伊家の江戸菩提寺となり、万治二年(一六五九)に二代直孝が没すると、その法号「久

ます。以降、豪徳寺に所在する藩主、正室、世子、側室の墓石は、いずれもこの形式を受け継ぎ建造されました。

◆国指定史跡へ

豪徳寺井伊家墓所は、東京都内における近世大名墓所の中でも、占有面積、墓石数ともに最大規模を誇ります。墓所の主区画は、万治年間以来改葬、再配置等の変更は行われず、三五〇年間にわたり形成されてきた墓所の姿を今に伝えています。都内の生垣塀墓地という環境にしながら、広大な墓域に整然と墓石が配置された豪徳寺井伊家墓所は、譜代筆頭大名の家格にふさわしい威厳と風格を備えた、貴重な遺構といえます。加えて、近世大名と江戸菩提寺との関係や墓制について知る

彦根藩主井伊家系図



昌院殿豪徳天英大居士」にちなみ豪徳寺と改名しています。

豪徳寺が大名の菩提所にふさわしい大寺に改められたのは、寛文二年宝年間(一六一二～一六八〇)のことです。この間、直孝の長女である掃雲院とその母春光院の手によって大造営事業がなされました。掃雲院は、若い時から深く仏法に帰依し、父直孝の冥福のため多くの淨財を寄進しています。豪徳寺に現存する仏殿、仏像や被纏といった数々の文化財は、掃雲院の寄進によるものです。

◆豪徳寺井伊家墓所

境内南西にある、石塀で区画された場所が井伊家墓所で、豪徳寺墓地全体の三分の一を占めます。墓所内は北西角に一代直孝の墓が位置し、そこから南西に直進した最奥部に十三代直弼墓(東京都指定史跡)があります。この直弼墓に至る参道沿いには藩主、正室らの墓石が十一基並んでおり、同家墓所の中心部といえるでしょう。

豪徳寺の側藍鑿備に功徳のある掃雲院墓は、その中央西側に一族の墓所を見守るかのように建造されています。

墓所内の北側には、早世した井伊家子息子女ら一族の墓石に退じて、江戸藩邸で亡くなった藩主とその家族の墓石も据えられています。これらを合わせると井伊家墓所に所在する墓石の総数は三百基余りにもなります。

豪徳寺井伊家墓所の中で最も古い墓は、直時(一代直孝四男)のもので、万治元年(一六五八)に建てされました。豪徳寺中興開基の一代直孝が沒したのはその翌年で、どちらの墓石も磨礔風笠付の位牌型で造られていました。

上でも参考となる文跡です。

彦根藩主井伊家の墓所は、豪徳寺、清涼寺(滋賀県彦根市)、永福寺(滋賀県東近江市)の三ヶ寺にあり、歴代藩主と一族の墓が綱羅されます。これらの墓所は、将軍家側近でもあった井伊家の榮を物語り、江戸時代の幕藩体制と大名文化を考える上で、必不可少の貴重な遺産といえます。

このことから、平成十九年十一月十六日の文化審議会において、三ヶ寺の墓所を史跡に指定すべきとの答申が出されました。今後、文部科学省での手続きを経て、正式に国の史跡に指定される予定です。

問合せ：世田谷区教育委員会企画部

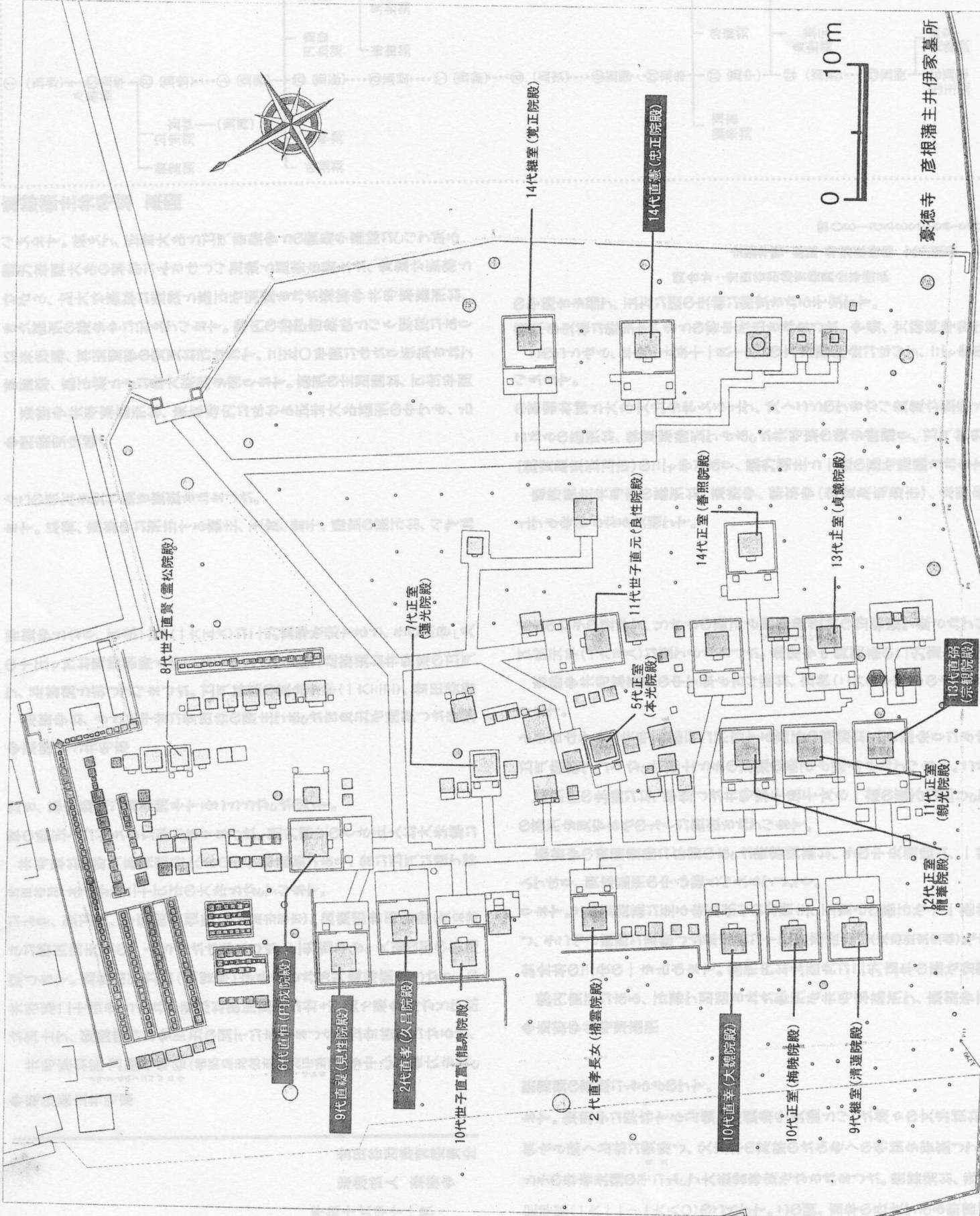
生涯学習・地域・学校連携課 文化財係

電話 03-5432-2726

※系図のうち実線は実子、点線は養子関係を示す。
※○数字は当主の代数を示す。

※()は豪徳寺に墓のないものを示す。

出典『豪徳寺 文化財総合調査報告』



豪徳寺 彦根藩主井伊家墓所